

博多の風

F u - Z i n

第28号

平成23年11月発行



報告

第26回NPO博多の風フォーラム(第二部)

市長と語る

これから先の福岡市



報告

第10回 博多のおいしゃんと歩こう
追い山笠コース探訪

告知

第11回 祭童子集まれ
楽文コンテスト表彰式

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください

平成22年

- 4月 第24回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:大庭宗一氏(NPO博多の風理事長)
- 5月 第17回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第9回 追山コース探訪 開催
第10回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第18回 はかたの町クリーン作戦 実施
第10回 祭童子集まれ楽文コンテスト表彰式 開催
第25回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:杉浦孝昭氏(映画評論家)

平成23年

- 4月 第26回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:高島宗一郎氏(福岡市長)
- 5月 第19回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第10回 追山コース探訪 開催
第11回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第20回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
 - ・博多の風フォーラム開催
 - ・広報誌・HP発行
 - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
 - ・作文コンクール(楽文コンテスト)実施
- 地域環境向上事業
 - ・博多の町親交
(清掃活動・クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
 - ・書籍出版
 - ・博多祇園山笠の振興
 - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
 - ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人

博多の風

〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16-302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL http://hakanokaze.jp



NPO博多の風フォーラム 第二部 市長と語る「これから先の福岡市

去る平成23年4月16日、第26回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて行われました。第一部では、大庭宗一理事長の著書「自分がんばれ。」から5つの項目を抜粋して進行役の沢田幸二アナウンサーにより朗読していただき、併せてその内容について大庭理事長から解説していただきました。

続いて第二部では元KBCアナウンサーであり、現在は福岡市長として活躍されている高島宗一郎さんにご登場いただき、大庭理事長、そして元会社の上司でもあった沢田アナウンサーとの3人により対談形式でお話いただきました。

■「市長」：想像以上に激務な毎日！

(沢田) 高島市長、市長になって約半年になりますか？
(高島) 正直言うと私はまだ「振り返る」ということをしていませんね。というか、振り返る暇が無いんですよ。次から次と新しい案件が来るので、その瞬間に頭に入れて、分からないところを聞いて理解しておかないといけない。そんな毎日を繰り返している中で、「これまでどれくらい経ったかなとか、どんな感じで選挙をしたかな」とか、思いつく暇も無い。というのが実態です。

(沢田) ある程度予想はできたでしょうけど、それ以上に？
(高島) 想像をはるかに超えてました。

(大庭) スケジュールは自分で立てられるものなんですか？
(高島) 毎日のスケジュールというのは「これから10分のレクチャー、次は15分の面談」という形で次から次と決まっ

ていて、震災に対する話、義援金を持つて来たという方のお迎え、何々の施設がオープンするということ、その説明を受けに...ということ、福岡に関することあらゆる案件が入ってくるわけです。

(大庭) 市長は1人やけど、来る人にとっては「私だけ」っていうことだからですね。大きな案件はそれはそれできちり進めながら、いろんなことを前向きにやっていると聞いていいですね！

■国や県との連携、全ては市民のために

(大庭) 統一地方選挙が終わり、小川新知事が誕生しました。特に福岡の場合、福岡市と福岡県の連携がいい意味で上手くいきそうな気がするんですが。

(高島) 福岡市は政令指定都市ですから、他県でいうところの県のレベルの権限を持っています。しかし、那珂川・柳井川といった川は福岡市内

を流れる川ではあるものの、これについては県の管轄なので、市は何もタッチできないんですよ。また大濠公園と舞鶴公園はビッタリくっついてるんで、一体として開発すれば皇居の周りにも匹敵するくらい素晴らしいランニングコースもできると思いますが、舞鶴公園は市の管轄、大濠公園は県の管轄ですから一体となった整備というのが出来ないんです。

私も福岡市に住んでいる者として、何処がやるかが市民にとって良くなるように協力していくべきものだと思うんです。お互いが垣根を低くしていかなければならない。そのためには「人間の交流」というのがまず一番だと思います。それぞれトップである知事と市長がきちんとコミュニケーションをとって、そういったものがだんだん伝播していく。ということになればいいと思っています。

■「ごども病院問題」にみる、議論のプロセスと課題を共有することの大切さ

(大庭) やはり答えがでるまでには時間がかかりますか？
(高島) 時間をかけちゃいかんのですよ。

(大庭) 私もそう思います。
(高島) 前は市の内部だけの調査委員会で調査した結果、何が話されたかが良く分からなかったんです。分厚い報告書を読めと言われたんですけど、その読む気も無いじゃないですか。そういう部分をオープンにしましょうというところで、今回の検証委員会に至ったわけです。会議している様子は全部傍聴も自由ですし、インターネット上で誰でも見ることができると、後になっても全てを見返すことができる。これだけ可視化して透明化して物事を決めていけば、すでに10年も経ってしまっているこの問題についても、正直もつといるんな選択肢があったんだらうと思うんです。

■「自分の想い」：浸透させるのは難しい！

(高島) 実は福岡市で「動画チャンネル」を作ったんですよ。やっぱり、自分の言葉で伝えるのが一番分かりやすい



高島宗一郎 (たかしま そういちろう)
1974年11月1日生まれ 37歳 (A型)
97年にKBC九州朝日放送入社。情報番組「アサデス」環境番組「水と緑の物語」などのキャスターを務める。2010年12月福岡市長就任 (第35代) 戦後歴代の福岡市長のなかで最年少当選 (36歳) を果たした。

と思うんです。テレビの時のノウハウでいくと、文字は出来るだけフリップ一枚にシンプルにまとめてそこだけをクロージアップする。図や絵とかで分かる場合はできるだけビジュアル化する。そうしないとなかなか浸透して理解してもらえないのは難しいんですよ。

これまで沢田先輩に鍛えられた(笑) ノウハウを活かしてですね、これまでの問題は何だったのか、今どこがポイントで議論されているのかというのを分かりやすくしていくという作業をしていきたいと考えています。

(沢田) なるほど。市長の考えや動きは、最初「行政の素人」ということを前面に掲げた市長の戦略としては成功しているかなあと感じます。

(高島) 「行政の素人」というところをもう少し丁寧に言うのと「素人の眼を持った素人」になりたいたいですよ。素人が素人の言い方をしても分からないんですよ。今、いろんな問題に関してレクチャーを受けていますが、分からないんですよ。しかもそれを市政だよりに掲載してそれだけで皆さんに理解してもらえないのかな？と。

(大庭) いやあ、市政だよりなんて、市民の大半の人が読んでいないのでは？
(高島) たぶん年齢層にもよると思うんですよ。例えばお子さんを持つていらつしやる方だったら予防接種とか載ってるんで、チャンネルを絞る訳ではなくて、テレビだったり市政だよりやスマートフォンなど、いろんなチャンネルでの発信をできるだけ分かりやすくやっていく...。

(沢田) そういった「高島イズム」は職員の方にはどの程度浸透していますか？
(高島) 難しいなあ、(沢田) はっきり言って温度差みたいなのもあるんじゃないかなあ...。

(高島) でもこれってアナウンサーでも後輩に教えることって難しいじゃないですか。繰り返して繰り返して一ヶ月でできるんですよ。そう思った意味では

私のすぐ近くについている広報宣伝の皆さんっていうのは、ずいぶん考え方が分かかってきてきている。やっぱり伝わらなければ意味が無いし「言えれば相手に伝わっている」というのは大間違い。そういう部分での「イズム」っていうのは理解していただいていると思います。

ただ、市の職員が1万人いる中で結局伝言ゲームになってしまっているんですよ。例えば、「世の中の多くの人が自ら情報を取りに行くようになってきているのだから、その流れよりも少し先を行っていかないといけない」という話をするんですけど、それを伝える上の人々の態度が悪いと「使ったこと無いけど、情報収集のためにスマートフォンを持って言われた」というふうになってしまったり。若干の歯がゆい思いもあつたり。でも仲間が増えていきますので展望は明るいと思いますよ！

■「市長」としてこれからが本番！

(沢田) 市長、ホントにアイデアがいろいろあつて...
(高島) ありすぎてホントにもう！役所の中で受け皿が欲しいんですよ。市長の仕事は確かに重要ですが、ものすごく遣り甲斐があるし、楽しんでます！今は、自分が民放にいた時に「こうすればいいのに」と番組で言っていたことを、とにかくどんどん実際に

行政の中で取り入れて動かしたい一心です。自分はキャリアが無いのに焦ってもしようがないわけで、できることを全力で一先懸命するというところで、本当に充実して頑張っています！

元アナウンサーだけあつて、語り口は明瞭そのもの！開始直後から、会場は一気に高島市長のお話しに引き込まれていきました。

36歳という若さで市長に就任され、以来その重責を担い、奮闘しておられる毎日。その源は、福岡が好き！もつと良くしていきたい！という強い「想い」と、その想いを一人でも多くの人に分かりやすく正確に伝えていきたいという「熱意」でした。

「問題・課題は抱え込まずオープンにして共有する。それに対してみんなで知恵を出し合えばいい。」とおっしゃられた高島市長。福岡市が抱える課題と一人一人が抱える課題とでは程度の差こそありますが、生きていく中でいろいろ場面面でこのことが当てはまるのかもしれない。もつと市政に興味や関心を持っていくことで市長を応援したい！「同世代」で頑張っておられる市長を見て、そう強く感じた今回のフォーラムでした。(田中 大士)

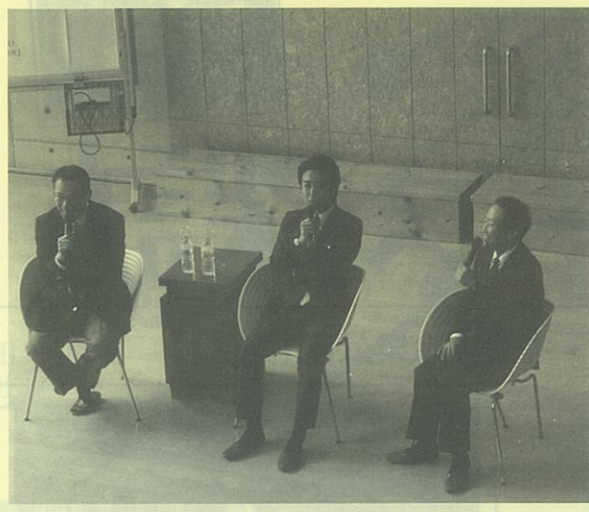
告知

第27回 NPO博多の風フォーラム開催のご案内

■開催日時:平成23年11月19日(土) 開場:13:30/開演:14:00 ■開催場所:博多小学校「表現の舞台」

講演 「明日のために言いたか放題」
講師 大庭宗一(NPO博多の風 理事長) 沢田幸二(九州朝日放送アナウンサー)

※当日は午前11時より同会場にて、「第11回 祭り童子集まれ楽文コンテスト」の優秀作品表彰式を開催します。

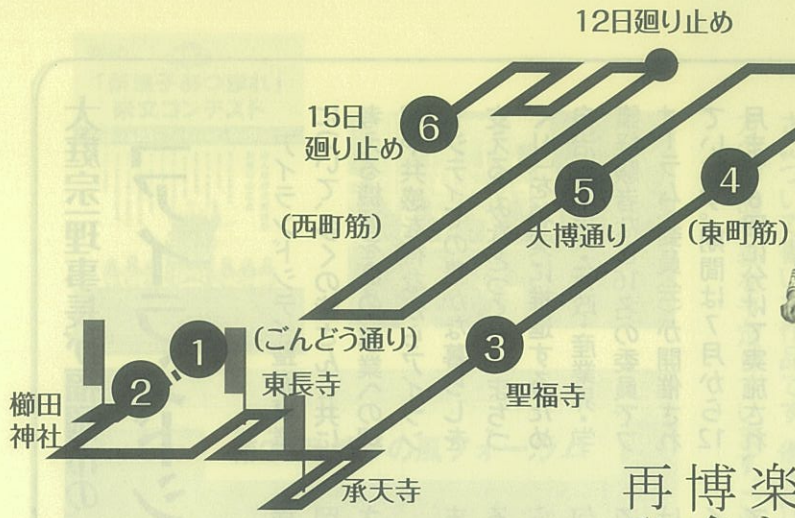




第10回 博多のおいしゃんと歩こう

追い山笠コース探訪

平成23年6月5日(日)に今年で10回目になる「追い山笠コース探訪」が開催されました。今年も、新聞やラジオ等で幅広く参加者を呼びかけ、抽選で選ばれた約二百名の方が参加しました。様々な国からの留学生もグループで参加され、参加者を10のグループにわけて9時30分から3分おきに出発。当番法被に身を包んだ博多の風の仲間たちが「語り部」として案内しました。心配された雨も上がり、約2時間をかけて博多の町を歩きました。ここでは当日のアンケートに書いていただいた参加者の声をご紹介します。



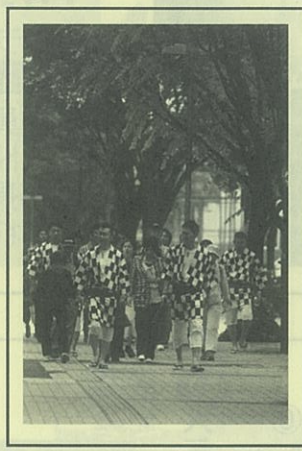
楽しい説明で、博多の町を再発見できました。

親子で博多の町を歩いて良かったです。
本番を見学したい。
最高に良かったです。
来年も参加したいです。

山笠の方達の温かい対応に博多にいる人間としての誇りを感じました。

長い距離を走っているんだなあとびっくりしました。

5 大博通り



少しきつかったけど有意義に過ごせました。博多の歴史も分かってよかったです。

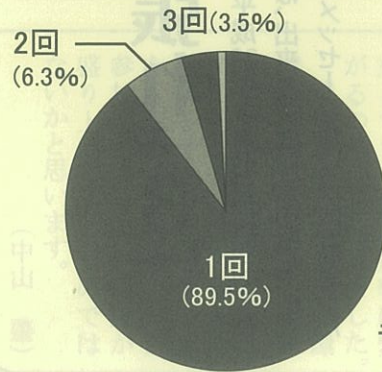
実際にコースをゆつくりと見てまわると、細かいところまで分かるので、大変な感じがした。

近所は通っていましたが意外と知らないことが多いことに気がきました。

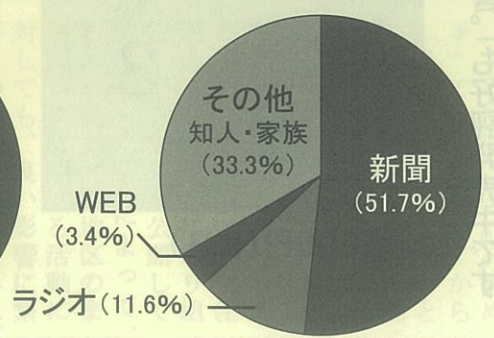
追い山笠コース探訪アンケート結果より (集計)

今回のコース探訪では、終了後に任意でアンケートを実施させていただきました。感想としては満足という回答が多い結果となりましたが、運営についてのご意見などもいただきましたので、今後の運営に活かしていきたいと思っております。

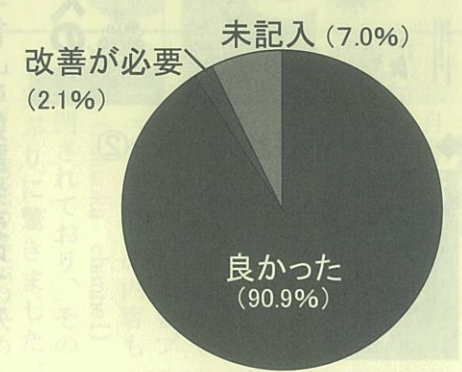
Q:参加回数は?



Q:今回のコース探訪を知ったきっかけは?



Q:参加してみた感想は?



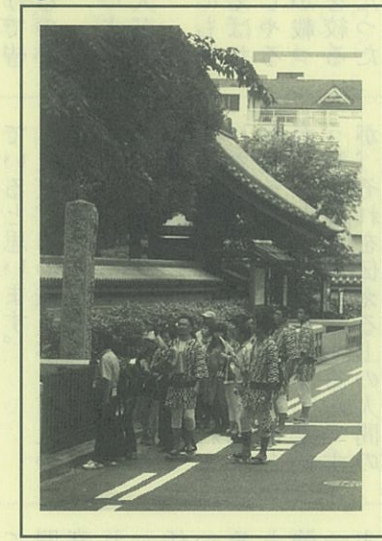
1 冷泉公園(集合)



楽しいおはなしを聞きながら楽しい時間がすごせました。
歩いたことがなかったのが新発見です。
とても楽しく、知っているつもりが新しい発見でした。
普段見ない町を見れてとても楽しい時間を過ごすことができました。満足。
面白かったです。知って見るのと、知らずに見るのでは大違いです。

スタッフのみなさんの笑顔が素敵です。

3 聖福寺



伝統行事を維持することの大変さが十分認識できました。

自分では調べることの出来ないことが聞けてよかったです。
コースをめぐるって、熱き心、伝統を守る心とかに触れられた気がしました。

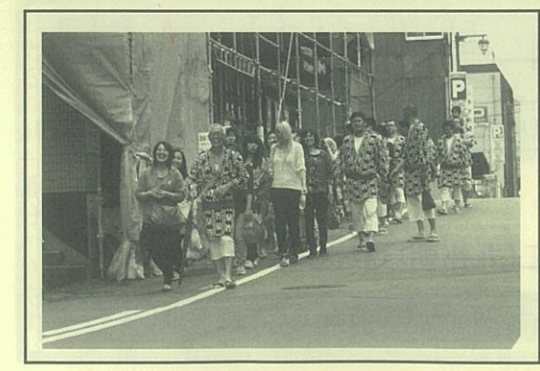
博多の町を山笠の目線で歩くといつもと違った風景に见えました。
コースが分かり、山笠を見る楽しさが増えた。

2 山留め



伝統行事というより、今、活きた活動をされている様子がうれしいですね。

4 東町筋



大庭宗一理事長が福岡市の

「アイランドシティ・未来フォーラム」に

委員として参画

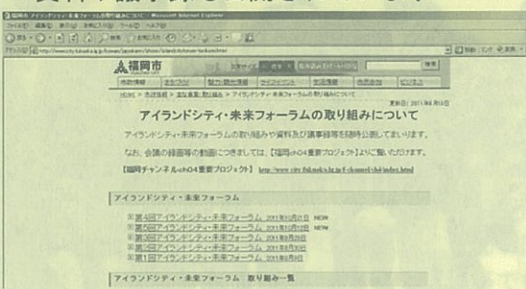
アイランドシティ整備事業について、多くの皆さんと共に考える機会を高め、事業への理解や共感を得ながらアイランドシティでの豊かな暮らしを支える「みなとづくり」「まちづくり」を着実に推進するため、自治会・市民・行政・産業界・学識経験者など16名の委員でフォーラム(委員会)が開催されています。期間は7月から12月まで6回に分けて実施され、

検討内容や議事録なども、福岡市のWEBサイトでも公開されています。大庭理事長は「今住んでいる、また将来的にここに生活される1万8千人のことを考えたら、安心安全とか、そのために何をしなければいけないか、できることから考えていかなければいけない。」など、まちづくりの中で必要なことについての提言を行っています。

11月21日～24日

RKBラジオ
「大庭宗一の博多熱風塾」
森委員(アイランドタワー自治会会長)がゲスト出演します。(予定)
理事長とFIC(福岡アイランドシティ)のこれからについて語ります。

◆福岡市のWEBサイト
資料や議事録も公開されています



◆Fukuoka channel
フォーラムの様も動画で公開されています。

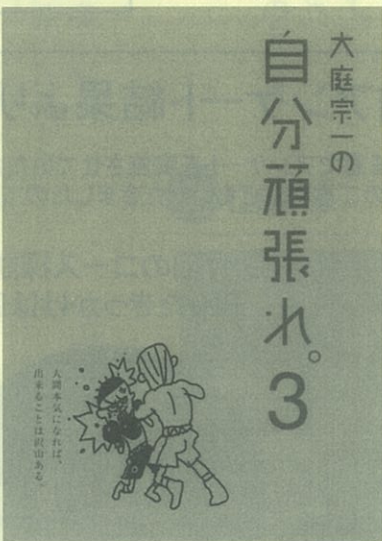


大庭宗一の活力エッセイ

シリーズ第3弾

「自分頑張れ。3」

人気シリーズの最新刊が、平成23年3月23日に発刊されました。「人間本気になれば、出来ることは沢山ある。」と頑張る力がわいてくる熱いメッセージがいっぱい詰まったエッセイ集です。



定価600円(税込)

人気シリーズ「明日への一言。」も好評発売中です

◆「明日への一言。」①～⑥



◆「自分頑張れ。」①～②

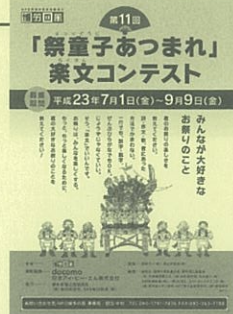


告知

第11回 祭童子あつまれ 楽文コンテスト表彰式

平成23年11月19日(土)開催(予定)
開場10時30分 開演11時
会場 博多小学校 表現の舞台

今回で11回目となる楽文コンテストですが、7月から9月の期間に、福岡市内外の小中学生から1080通もの応募が集まりました。1次選考から3次選考を経て、作品を選ばせていただきました。大人でもはっとさせられる子供ならではの視点で、見たこと、感じたことを生き生きと表現したものや、初めて参加した祭の話など、男女それぞれが祭の楽しさについて書いた作品です。優秀作品の表彰と、各賞代表の方の作品発表を予定しています。ご期待ください。



第11回の入賞者の皆さん(平成22年10月)

NPO博多の風 賛助会員募集のお知らせ

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お知り合いの方をご紹介ください。

お問合せ
「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)

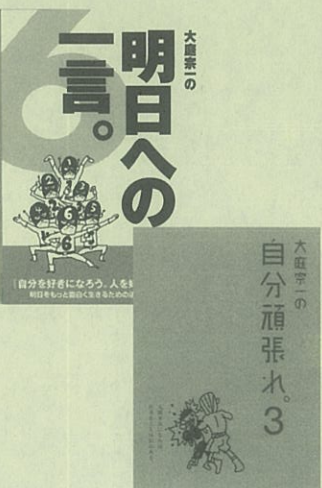
E-mail info@hakanokaze.jp
FAX 092-263-7188

NPO博多の風の最新情報はホームページに掲載中です。



URL <http://hakanokaze.jp>

がんばろう日本



NPO博多の風では、皆様のご協力のもと、東日本大震災の被災地で活動をされている支援者の方々への心支えとなることを願い、博多の風出版の「自分ががんばれ。」「明日への一言。」シリーズを合計100冊送ることになりました。

～編集後記～

私自身も、市政について知る術としては「結果のみ」「市政だより」でというイメージを持っていました。改めて福岡市のホームページを見てみると様々な情報が掲載されており、市長の動きや市民の関心が高い重要なプロジェクトなどの内容も動画(Fukuoka channel)で公開されており、その充実ぶりに驚きました。「子ども病院の移転の決め手」では、市長みずから「スピードとスペース」という事を分かりやすく説明されており、それに至った意見交換会の模様も公開されていました。アイランドシティのまちづくりについても、住民の方が前向きに取り組んでいる様子を公開して共有することによって、それを見た他の地区のまちづくりに関する活動に對しても、良い影響に繋がると感じました。情報を受け取る側の環境の問題もあるかとは思いますが、今後も継続していろいろな形で情報を公開するという事で新たな気づきを生み、市民参加型の市政への機運が盛り上がりつつあるのではないかと思います。(中山 肇)